

【現地踏査を踏まえた課題の整理と今後の技術的検討方針について】 山梨県

■ 現地踏査を踏まえた現状の整理

- 水利用実態調査の結果、御坂側・河口湖側ともトンネル湧水を生活全般で使用していることが確認された。特に河口湖側は町の公共水源となっており、現状不足気味で井戸も設置されている。
- 供用中の新御坂トンネルでは、建設後50年を経ても坑内の漏水が著しく、両坑口部での総湧水量は、毎分2 tにも及んでいる。
- 藤野木-愛川構造線は、新御坂トンネルに変状を生じさせるような悪影響を与えていないが、その他の断層等の地山劣化箇所では、4mm程度の段差を含む縦断クラックが生じている（内面補強工によりクラックの変位は収束）。
- 重交通の国道137号直下を小土被りでトンネル坑口部を施工する必要がある。

■ 今後の技術的検討方針（案）

- トンネル工事に伴う水文環境への影響予測と対象範囲に関する検討
⇒ 影響範囲の検討（水文学的手法）、その他個別水源や水利用状況の情報収集（個別水利用実態調査）
- 影響予測に基づく対応方針とこれに基づく調査内容・方法の検討
⇒ 公共水源の取水量（概算量）の把握、施工後を見据えた調査スケジュールの立案、代替水源確保に関わる調査
- 断層等の地山劣化部における維持管理段階での長期安定性も踏まえた設計・施工上の課題抽出とその対応策の検討
⇒ 避難坑を調査坑と位置付け、先行施工による地山情報を本坑設計施工にフィードバックする設計施工手法等（「青崩峠トンネル」（飯田国道事務所）や「青撫山トンネル」（青森河川国道事務所）等においては、委員会での審議により設計施工法を精査）
- 重交通かつ小土被り条件でのトンネル設計施工上の課題抽出とその対応策の検討
⇒ 現道交通へ影響を与えないための路面の沈下抑制対策、沈下モニタリング方法、沈下予測解析等の検討



∴ 高度な技術力を必要とするトンネルとなることから、
県と国との適切な情報交換を行いつつ、検討を進めていくものとする。

新たな御坂トンネルのルートについて

山梨県

- 第1回検討会で整備案として承認された案【1】は、クレスト位置が行政境にあるため流域変更とならない。
- 案【2】はトンネル整備後も、富士河口湖町側（平面線形）、笛吹市側（縦断勾配）ともに課題が残ることになる。
- 課題箇所（トンネル老朽化、平面縦断線形、防災危険箇所）を全て解決できるのは、案【1】である。

■第1回検討会にて承認された案【1】は、現地で確認された課題を全て解消できるルートである。

【案1】地域高規格道路に準じた整備案は、第2回検討（現地確認）を踏まえても妥当である。

